

「アトピー手記」 佐藤 清志郎 2歳6ヶ月

2014年1月12日

次男のアトピー治療を経て

松本先生のホームページを見つけたとき・松本医院に入る階段を上っているとき・扉を開けてふっと漢方薬の香りに包まれたとき・初めて先生にお会いしたとき…。ひとりで抱えていた我が子のアトピーへの不安、どうして良いのか分からず右往左往していた気持ちが、不思議と“必ず治る”という確信へと変わっていきました。そして、半年たった今、こうして手記を書いています。不思議な確信は現実となりました。これから治療に向かう方、同じようにアトピーの子を持つ母となった方々への希望のひとつになれば、と思い、これまでの経過を記したいと思います。文章をまとめるのが苦手なため、長くなることをお許してください。

平成24年12月10日

百日の祝いも無事に終えて記念写真も撮り終えた頃、息子の耳前に湿疹が出る。母乳をあげるときに私が着ているセーターにあたる場所なので肌が負けていると思い、放っておくが、2・3日でますます症状がひどくなるので皮膚科を受診。

「この子は乾燥に弱いようだ」と言われ、ヒルドイド軟膏:ロコイド軟膏=1:1の混合薬(1日2回塗布)を処方される。4日で劇的に症状が引く。この時点で私は薬に対して何の疑問も持たない。

12月17日

皮膚科を再受診。

ヒルドイドのみに切り替えるよう指示される。薬局で、症状が出ていなかった部分の保湿剤としても使ってよいのかを尋ね、問題ないと言われる。夜、風呂後に顔全体に塗布。乾燥しやすくて肌が荒れるのなら保湿すればよい、と単純に考える。

12月18日

朝、顔全体が赤く腫れ上がっている。驚いて皮膚科を再受診。

赤くなった部分は、前と同じ混合薬を塗るよう指示される。ヒルドイドを塗って赤くなったということで、代わりに白色ワセリンを処方される。腫れ上がったところに新たな薬を塗ってさらにひどくなるのが怖く、とりあえず一時塗らないことにする。が、はっきりと薬に対して疑問が生じて

いるわけではない。

市販のローションや乳液での保湿を試みる。薬よりも刺激が少ないであろうと単純に考える。

12月20日21日

2日経っても症状に変化がないため、皮膚科で処方された混合薬を塗布。赤みは減っていくが、初めて塗ったときよりも治りが遅いことに気づく。なんとなくの不安で2日でこの薬をやめた。ここで初めて薬について調べる。ロコイドがステロイドであることを知るが、私自身が幼少時からステロイドを使用しており、抵抗はなかった。しかし、アレルギーが出ているのかもしれないという考えが浮かび、調べる。部位別に原因があるというなにかのページを見て食事制限を試みる。

12月31日～平成25年1月2日

顔全体が赤みを帯びてひどい状態になっている。混合薬を塗布する。4日間でだいぶ赤みが減る。「この薬は連続して塗るのは4日まで。その後10日は間をあげないと癬になる」という皮膚科医の指示を信じていた。食事制限も効果があるようなないようなで一喜一憂していた。

1月4日

赤みが減ってきたので、ここで白色ワセリンを塗布。

1月5日

またしても塗ったところ全体が赤く腫れ上がる。

1月7日

小児科を受診。

「一旦きれいな状態まで戻したほうがいいでしょう」と言われ、パスタロンローション、オイラックスHクリームを処方される。オイラックスも、ロコイドより弱いとはいえステロイドである。すでに薬には十分疑問を感じているが、他に思いつく手立てもなく、小児科医のいうように肌が一旦正常な状態になってバリアができれば簡単に肌荒れもしなくなるだろう、と考えている。この頃やっと、アトピーかもしれないという考えが頭に浮かぶが、ネット上の「乳児にできるのは乳児湿疹である」「清潔にして保湿していればいずれ治る」等の文面を信じていた(信じたい気持ちが強い)。

1月8日～11日

小児科で処方された薬を少しずつ試しながら塗布。

ほとんど顔の赤みはとれない。湿疹が首や上半身まで広がる。

1月12日

処方薬をやめる。

ネット上で乳児の皮膚疾患について徹底的に調べる。

ステロイドを塗り続けることに不安があった。塗っても塗っても広がっていく湿疹。このまま全身にステロイドを塗るようになることだけは避けたい、と漠然とした思いがあった。

1月13日～

市販のローション、アトピーに効くという水、馬油等々を試すが、赤みは消えない。額はブツブツと皮膚が剥け、耳の前後はジュクジュク、頬からも滲出液がしばしば出るようになる。首はゾウのようにゴワゴワ、胸に軽くブツブツ、肘の裏が若干赤みを帯びる。経日とともに症状は悪化。落屑もひどい。ここまでくるとさすがにアトピーを疑わずにはおれなかった。真っ赤な顔をしてニコッとわらう息子…見ているだけでも辛かった。私のアトピー体質を受け継がせてしまった、妊娠中の食事が悪かったと自分を責め、今からどうしてあげるのが一番いいのか、ここでステロイドをやめるのは正しいのか、母乳はやめたほうがいいのか、アレルギーマーチに入り込んでしまったら、もっとひどくなったら…。ずっとそんなことばかりを考えていた。今の私の決断が我が子の人生を狂わせるのだと思うと、もうどうしようもなく苦しかった。産後鬱も重なり、家族にも迷惑をかけた。

1月20日

偶然、松本医院のホームページを見つける。まだ3時間おきに授乳で起きる生活だったが、息子が寝ている少しの時間を使ってホームページを読み込む。

アトピーを治す、という触れ込みの医院はいろいろあったが、松本医院の理論ほど筋がとおりと、心から納得できるものは他にはなかった。そもそもここまで丁寧に書き込んでおられる先生はいなかった。それもそうだが、他院のやり方では筋が通るはずもないのだから。松本先生の「自分の病気のこととは自分で理解しろ」という至極当然のお言葉が素直に心に響いた。読み込むほどに理論のすばらしさに感動し、ここしかない!という思いに駆られた。

即、新幹線の切符を購入しようとしたが、日曜深夜で買えず…朝までに衝動的な気分が落ち着き、まずは周囲に相談した。夫・両親に。ここ福岡から大阪高槻までの距離を考えると、即断しようとしただけでも、何か動かされるほどのエネルギーがあったのだろうと思う。

1月25日

家族(夫・長男・次男・私)で松本医院へ。
階段を上ると、扉の前に[当院ではステロイドは絶対に使いません。ステロイドが必要な方は他院へ行ってください]の張り紙。実に清々しいと笑ってしまった。

扉を開けると、ムワッと香る漢方薬のとてもしいい香りに、安心感を覚える。事前の看護師さんの聞き取りで、以前にヒルドイドや白色ワセリン塗布で腫れ上がったのは完全にステロイドのリバウンドだ、と言われ、納得する。

その後、呼ばれて診察室に入ると、先生は私の顔を見るなり「お母さんもアトピーあるね」と一言。驚いた。今の私は顔や首など見える部分の湿疹などひとつもないのに。主人や長男を見ても何もおっしゃらなかったで、ふたりにアトピーがないこともわかっておられた様子。待合室でずっとグズっていた次男は、先生が語っておられる間、ずっとニコニコしていた。まるで「このひとなら治してくれる」とわかっているかのように。次男が痒みで泣き出すと、先生は「痒いんやろ!搔いてやり!」。…え!? 親が搔いてあげていいの?とまた驚いた。ホームページを見て搔いてもよいことはわかっていたが、子供が搔くのを放っておいてよい、という程度にしか考えていなかった。「いっぱい搔いてやり!痒くて搔けん辛さわかるやろ!」子供の気持ちを一番わかっているのは先生だった。

電話相談や相談の方が入れ替わり立ち代わり来られる中、先生の長いお話を聞き(ひとりひとり丁寧に応えておられます。超早口ですが(笑))、「絶対に治る!」という言葉と握手、風呂用の漢方薬真空パック、ド派手な黄色と赤色の軟膏、見たことのないドリンクサイズの消毒薬、(と、薬局で抗生剤)をいただき、帰途につく。

気持ちがとたんに落ち着いた。もう一人で悩む必要はない、先生にお任せできる、と思うだけで気分が一気に晴れやかになった。治るのだという不思議な確信が、既にあった。

【治療記録】

1/25 (1日目)	消毒薬は染みないのかあまり泣かない。 免疫を上げる漢方風呂は漢方薬1袋を煎じて3日 分に分けて子供用風呂(タライ)に入れることにする不思議そうな表情で浸かっている。 塗り薬には泣く(眠かったせい)。 その晩は痒みで2時間おきに目を覚まして泣く。おっぱいで寝かしつける。
---------------	--

1/26 (2日目)	なんとなく顔がスッキリしている。額の赤みが消えている。頬も、軟膏でしっとりしているせいか、ひどくなっているようには見えない。 日中はあまり痒がらない。昼寝はひさしぶりに3時間。床においても泣かずに一人遊びができています。 (アトピーがひどくなってからは、昼寝1時間、抱っこおんぶでも泣いていることが多かった。) 夜の薬はつけている最中にウトウト…。気持ちいいらしい。
1/27 (3日目)	昨夜は久しぶりにグッスリと眠れた様子。授乳で2回起きただけ。 授乳の後少し痒いようで、ボソボソ掻いているが、少し泣いてすぐに眠りにつく。 朝、皮膚が盛り上がっている。厚みが出てきているのがよく分かる。昼頃には頬の赤みがほとんどなく、ブツブツに部分だけ少し赤い程度。額には傷以外では赤みが見当たらない。 ガサガサしていた皮膚がスルツとしており色白さがわかるように。 夜には腕と背中に湿疹が広がる。額は掻いて滲出液が出る。すぐに寝付く。 症状がよくなっていく部分とひどくなっていく部分が混在。
1/28 (4日目)	耳前のジュクジュクが減り、赤いポツポツに。背中中の湿疹が広がる。 頬は赤みがとれ、額は白さが増す。 夜中によく起きるが、痒みではなくおっぱいが足りていない様子。
1/29 (5日目)	頬に赤いポツポツが再発するが、痒みはないらしい。痒みは、額・耳周辺・頭・首にある 様子。額が白くなったので、唯一白かった鼻と地続きになってきた。
1/30 (6日目)	顎まで白くなり、Tゾーンが白くなった。頬は赤みが増している。首周囲の黒ずんだザラザラした皮膚が下に広がっているが、以前のようなゾウのような皮膚ではない。 頭の痒みが減っている様子。

4

1/31 (7日目)	鼻水が少し。発熱なし。 数日前からおっぱい不足でよく泣く。皮膚の再生が激しくなり、リンパ液の滲出もあるので栄養分が足りなくなっているのだろうか。いままで不足したことはなかったので、おそらくそういうことなのだと思う。
2/1 (8日目)	昨夜出していたおしり周りのポツポツが、朝には消えている。 額・頭を掻く回数が減っている。こすりつけも減。頬はまだ赤いが少しピンクがかったところも出てきた。 明け方から咳が少々。発熱なし。

2/2 (9日目)	<p>頬のリバウンドがひどくなってきたが、最も酷かった時とは比べものにならないほど状態は良い。以前は全体が腫れ上がったようになっていたが、今は白い地肌に赤いポツポツといった感じ。</p> <p>首はザラザラ。耳の後ろ・顔と首の境はポツポツが枯れてきている。額は傷が少なくなってきた。肘裏の症状がなくなる。頭のフケがいつのまにか出なくなっている。</p> <p>明け方、喘息のようにゼーヒューしていたが、一時だけ。</p>
2/3 (10日目)	<p>額にあった傷がすべて消失。スベスベの額に感動。</p> <p>夕方頃から頬が真っ赤に腫れ上がる。首・髪が生え際に痒み。</p>
2/4 (11日目)	<p>リバウンドが酷くなってきた。白くなっていた額に、内にこもったような赤いブツブツ再発。頬は真っ赤。肘のジュクジュクはなくなっている。</p>
2/5 (12日目)	<p>昨夜は痒みで1時間おきに目覚める。おっぱいで寝かしつける。</p> <p>さらにリバウンドが激しくなる。治療開始後いちばん酷い。額のブツブツが表に出てくる。</p> <p>ザラツキ・痒みも再発。耳前後・目尻のジュクジュクが酷い。</p>
2/6 (13日目)	<p>昨夜も1時間おきに目覚める。昼寝もすぐに起きてしまう。寝る前の痒みがひどい様子。</p> <p>耳周辺・首を搔いてあげると気持ちよさそうにウトウトする。</p> <p>額はザラザラ、頬の赤みが酷い。頭の痒みも再発。耳前の滲出液あり。お風呂用の煎じ薬をつけた直後は頬からも滲出液あり。</p> <p>喉がゼロゼロ。鼻水は治まってきている。発熱なし。</p> <p>体の皮膚の状態にはあまり変化が見られない。服を脱いだときだけ胸を少し搔く動作があるが、着ている間はない。</p>
2/7 (14日目)	<p>昨夜も1時間おきに目覚める。3～6時の間のみ3時間連続睡眠。</p> <p>朝には痒みが少し治まっている様子。</p>
2/8 (15日目)	<p>昨夜は4～7時の間のみ寝る。痒みが強い様子。胸のあたりの湿疹が酷くなってきた。</p> <p>おむつより上半身の皮膚がザラザラ。首は痒みはあるが少しキレイになってきた。</p>
2/9 (16日目)	<p>2～8時まで寝る。寝る前の痒みは相変わらずだが、寝てしまえばあまり搔いている様子はない。</p> <p>耳周囲がスッキリしてきた。ジュクジュクの範囲が狭まっている。</p>
2/10 (17日目)	<p>昨夜もしっかり寝る。寝る前の痒みは、少し手を押さえておくとすぐに寝付くようになった。</p> <p>昼間は痒みで泣く。搔いてあげると気持ちよさそうに寝る。</p>

鼻水・咳・ゼロゼロはなくなった。皮膚のリバウンド具合と連動していたところを見ると、これらもアレルギー症状(鼻・喉の粘膜に出た)ということだったのだろうか。昼過ぎには全体がここ数日のリバウンド前の状態くらいに戻った。

2/11 (18日目)	頬に薬を塗るときにツルリとする感触が!大きなリバウンドを乗り越え、顔は格段によくなってきている。しかし次は体に変化が。腹・背中がザラザラが酷く、胸を搔き宅る。赤みをもったブツブツだらけ。
2/12 (19日目)	ツルリとした部分が増えている。状態が悪いのは目尻～顎ライン・耳前。これ以外のところはブツブツもザラザラもない。耳前はまだジュークジューク。額のブツブツは表には出てこず、痒みはあるものの、傷にならない。すごく遠目で見ると、もうアトピーだと分からない程度。すごい回復だ。
2/13 (20日目)	頭・額・首・耳周囲を痒がって泣く。ただし以前のように寝付けられないほどではない。 首周囲のザラザラは減少。黒ずんだ色が薄くなってきた。肘周辺のザラザラがひどいが、湿疹はない。オムツをしている部分はキレイ。足の発疹もなし。余談だが、私の手指にもリバウンドが発生。(いままで幾度となくステロイドを塗ってきた)。息子が頑張っているのに自分がステロイドを使う気にはならず、放っておくことにする。
2/18 (25日目)	私がインフルエンザに罹り、息子の様子があまり把握できず。 右耳前～頬にかけて血だらけになっており、またかなりのリバウンドがあった様子。
2/21 ～24 (28日目)	息子もインフルエンザA型に罹る。38℃台の熱が続く。 小児科で薬(解熱剤・疾きり・抗生物質)を処方されるが、松本先生に電話すると「あーあー、そんなん飲ませんでええ!おっぱいだけしっかり飲みとき!」との言葉に、安心して薬服用せず。(ホームページを読んでいたので薬が要らないことはわかっていたが、苦しむ息子を見て少し心が弱くなった。先生に支えていただいた) インフルエンザに罹ってからというもの、皮膚症状は一時的に劇的に引いていく。やはり先生の理論どおり、生命に関わるウイルスとの戦いのために免疫は集中し、化学物質とは休戦状態になるのだということが目の前で立証された。3・4日後にはスベスベツルツルの透明感ある真っ白な肌に!(本当に治った暁にはこんな肌になるんだ、と思いを馳せた)。

2/28 (1ヶ月目)	インフルエンザの症状が治まり、皮膚症状がだんだんと酷くなってきた。一時休戦していたせいか、再燃するととても酷いように見える。しかし、実は赤みが局所的になっており、体の赤み・発疹は減っている。耳前・顎・頬の一部がジュクジュク。
3/10 (1.5ヶ月目)	離乳食を始める。先生より「何でも食べなさい」と言われていたので、特に制限もせず普通に離乳を進める。ブツブツもジュクジュクも出たり消えたりをくり返す。頬の前面と額がキレイなので、前からみるとアトピーがひどいようには見えない。右の顎ライン(耳前・目尻・顎)のジュクジュクは酷く、痒みもある。体は、腹・背中とも発疹は目立たない。インフルエンザ後には頭には全く出ていない。また余談だが、私の手指リバウンドが過去に経験したことがないほど酷い状態。痛みと痒みで手袋なしでは日常生活も送れない。夫の足・腕にもブツブツがでている(痒みなし)。聞くと、昔はじんましんが出る体質だったらしい。長男は漢方風呂と一緒に浸かっているわりには全く症状が出ない。

4/8 (2.5ヶ月目)	保育園に通い始める。治療1, 月半後からは、治療開始直後のような急激な変化はない。発疹が出たり消えたりをくり返しながらか、だんだんとよくなっている。
4/下旬 (3ヶ月目)	体はほぼ発疹が出なくなり、ツルツル。薬の塗布を顔のみにする。左の顎ラインがよくなってきた。
5/月上旬 (3.5ヶ月目)	突発性発疹のため39QC台の熱が3~5日続く。この間、皮膚症状が一時的によくなる(インフルエンザの時と同じ)。保育園に行き始めてから風邪をよくひいたが、その度に一時的に症状が引くという現象が起きる。風邪症状の酷さと皮膚症状の引き方が比例しているのが面白い。
5月下旬 (4ヶ月目)	酷かった右の顎ラインが、少しずつよくなっている。目尻は少し赤みがある程度。顎も赤みはあるがジュクジュクはなく、皮の剥けも少ない。搔くことが少なくなった。体のときと同じく“基本的によいがたまに発疹が出る”という状態に近い。
6月上旬 (4.5ヶ月目)	顎ライン(耳前~顎)がよくなりかけた頃に、いままで一度も出なかった口まわり(上唇と鼻の間)に湿疹が出る。痒みはない様子

6月下旬 (5ヶ月目)	口まわりの湿疹も消える。 発疹が出なくなり、漢方風呂、薬の塗布をやめてみる。
7月 (6ヶ月目)	薬をやめて一月。 口まわりに赤みや発疹が稀に出ることがあるが、何もせずに数時間で消失する。

以上が、息子の治療の結果です。

先生のホームページを偶然見つけていなかったら、今の私達はありません。出会えた奇跡に感謝、そして完治へ導いてくださった先生に感謝です。

息子のアトピー治療を通じて、いままでの病院・治療・薬に対する考え方が大きく変わりました。もともと私自身は薬嫌いでした。服薬すると自分の本当の状態が分からなくなるし、薬は治すものではない・治すのは自分の免疫以外にないと漠然と知っていたからです。自分が風邪で服薬することはなかったのですが、なぜか息子に関しては過保護にも熱や咳を出したといえは通院し、解熱剤を除く薬はすべて真面目に飲ませていました。そして、自身にも風邪薬は使わないのに皮膚の薬は使っていました。一貫性がなく何も考えていなかった証拠ですね。

長男のときからなにげなく使っていた薬が、実はステロイドだったり(虫刺されの水ぶくれで処方)、抗ヒスタミン薬だったり(先生も書かれているベリアクチンの混合薬)。調べてみて、やっと、こんなものを処方してくれていたのかと医者に怒りを感じ、何の疑問も持たずに飲ませていた自分に呆れました。

それからは一切の薬をやめました。通院も、診断をしていただくときだけの最低限です。そうしてみると、いままでとは少し違う治り方をするのです。風邪の症状が、出たり引っ込んだりではなく、あるときに一気に治るのです。虫刺されも、薬を塗っていたときは跡が黒くなり1年以上なくならなかつたのですが、薬を塗らないとキレイに治るのです。しかも、治るスピードは全く変わりません。

私の父母(特に母)も変わりました。好酸球性囊胞性毛包炎という皮膚炎に10年以上悩まされているのですが、今回の件で、幾度も薬(服用・外用)をやめようと考えながらなかなかステロイドから離れられなかつたのが、つい最近になって服用をやめることに成功しました。(松本医院にかかる勇気はまだもてないようですが…)。

次男のアトピーは、結局、家族にこれを教えるためだったのか、という気さえしています。生後4ヶ月という早さで、しかも症状がひどかったのが幸いして、こうして完治までたどりつけたのです。症状が軽ければ、おそらくここまで調べてもいないでしょうし、松本医院にもかかることもなかったと思います。

余談ですが、次男以外の家族の症状について。夫の足の発疹は数ヶ月で消失しました。長男には結局なにも出ませんでした。そして私は今、薬を塗らなくなって二月目にしてやっと薬の影響がなくなり、手袋なしで生活ができています。もちろん決して治ったわけでないことは分かっています。単に強化されていた免疫が落ちてきたのでしょう。が、これまでのステロイド歴を考えると、到底息子のように数ヶ月で治ることは考えられないので、このまま放置しておこうと思っています。もちろんステロイドを使うことは今後ありません。

先生が、手記を書かない方がいるとよくおっしゃっていますが、私はその気持ちも少し分かります。本当に治ってしまうからです。再発する心配もしなくてよいからです。治ったのを見ると、あれだけ酷かった状態をなかったかのように忘れてしまうのです。でも、きっとご恩を忘れていない方はいないと思います。

ほんとうに、ほんとうに、ありがとうございました!!

2013年8月29日佐藤清志郎母

2014. 1. 12追記

ついに母が通院を決意しました!

松本先生、どうぞよろしくお願いします。

(手記の提出が遅くなりまして申し訳ありません)